

事業所の概要表

(令和 3年 12月 22日現在)

事業所名	グループホーム はなの家					
法人名	医療法人 創実会					
所在地	松山市六軒家町3-19					
電話番号	089-924-1711					
FAX番号	089-924-1524					
HPアドレス	http://k_hanahouse@yahoo.co.jp					
開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日					
建物構造	<input type="checkbox"/> 木造 <input type="checkbox"/> 鉄骨 <input checked="" type="checkbox"/> 鉄筋 <input type="checkbox"/> 平屋 (4) 階建て (2~4) 階部分					
併設事業所の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (通所リハビリテーション ほの家)					
ユニット数	3 ユニット	利用定員数	27 人			
利用者人数	27 名 (男性 9 人 女性 18 人)					
要介護度	要支援2	0 名	要介護1	3 名	要介護2	3 名
	要介護3	7 名	要介護4	6 名	要介護5	8 名
職員の勤続年数	1年未満	1 人	1~3年未満	5 人	3~5年未満	3 人
	5~10年未満	7 人	10年以上	7 人		
介護職の取得資格等	介護支援専門員 2 人		介護福祉士 11 人			
	その他 ()					
看護職員の配置	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input checked="" type="checkbox"/> 直接雇用 <input type="checkbox"/> 医療機関又は訪問看護ステーションとの契約)					
協力医療機関名	河田外科脳神経外科					
看取りの体制 (開設時から)	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (看取り人数: 73 人)					

利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	50,000 円	
敷金の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 100,000 円	
保証金の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 円 償却の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有	
食材料費	1日当たり	1,500 円 (朝食: 円 昼食: 円)
	おやつ:	円 (夕食: 円)
食事の提供方法	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所で調理 <input type="checkbox"/> 他施設等で調理 <input type="checkbox"/> 外注(配食等) <input type="checkbox"/> その他 ()	
その他の費用	水道光熱費	13,000 円
		円
		円
		円

家族会の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有 (開催回数: 回) ※過去1年間	
広報紙等の有無	<input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (発行回数: 2 回) ※過去1年間	
過去1年間の運営推進会議の状況	開催回数	6 回 ※過去1年間
	参加メンバー ※□にチェック	<input checked="" type="checkbox"/> 市町担当者 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 <input type="checkbox"/> 評価機関関係者 <input checked="" type="checkbox"/> 民生委員 <input checked="" type="checkbox"/> 自治会・町内会関係者 <input type="checkbox"/> 近隣の住民 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者 <input type="checkbox"/> 法人外他事業所職員 <input checked="" type="checkbox"/> 家族等 <input type="checkbox"/> その他 ()

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!
ステップ外部評価でフラッシュアップ!!
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない
訪問調査を実施しております

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年1月18日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 22	(依頼数) 27
地域アンケート	(回答数) 4	

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

※事業所記入

事業所番号	3870103136
事業所名	グループホーム はなの家
(ユニット名)	2F 梅
記入者(管理者)	
氏名	安川 拓郎
自己評価作成日	令和 3年 12月 20日

<p>【事業所理念】※事業所記入 ~ぬくもりは我が家のように~ ① 利用者に対して家庭的な環境のもとで生活を営むことができるよう支援する。 ② 利用者が安心と尊厳のある生活を営むことができるよう支援する。 ③ 利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入 ①本人の暮らし方や思いの共有については、本人や家族又はかかわりのある方より入居前の暮らし方や思いなどの情報をいただき、今後の暮らしの希望を職員間で共有した。 ②介護計画の実践内容については、介護記録を見直し、用紙の様式を一部変更した。介護計画の実践内容を時間に沿って記入できるようにして、気づきやアイデアを皆で共有できやすくなった。 ③個別での外出や重度の利用者が戸外で過ごす機会については、感染症(コロナウイルス、インフルエンザ等)の心配もあるので買い物やドライブの機会をつくることは難しい、気候の良い時は敷地内を散歩して気分転換に繋げている。 (令和2年の初詣には重度の利用者をお連れすることが出来た。) ④食事の準備やメニューへの関わりについては、出来ることをして頂けるよう職員が付き添い、下ごしらえや盛り付けを手伝って頂く機会もあった。好みの物を聞いて、メニューに可能な限り取り入れた。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 昨年11月より、Instagramで日々の暮らしの様子や行事時の様子を発信している。 室内で季節毎の行事を楽しめるよう工夫している。正月には職員が鳥居を手作りして、はなの家神社に見立て、お詣りの雰囲気を楽しむようにした。夏には納涼祭を行い、利用者はゲームやスイカ割りを楽しんだり、たこ焼き、焼きそば、かき氷を食べて過ごしたりできるようにした。秋には運動会、冬にはクリスマス会で楽しむ機会をつくった。 地域より「防護服のガウンテクニック(防護服の付け方外し方)について教えてほしい」と依頼があり、11月の地域の防災訓練時に、管理者が実際に行なって見て説明した。</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日々の関わりの中で利用者一人一人の思いや意向の把握に努めている	◎		○	入居前に管理者が自宅や病院などを訪問して、本人や家族に希望や意向を聞いて入居者情報シートに記入している。 入居して少しの間は、日々のかかわりの中で聞いたこと等をアセスメントシートに記入している。その後は、個人観察記録に記録して把握に取り組んでいる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	その日の表情や体調等把握しながら安心・安全に過ごして頂けるよう努めている				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族等からの意見や要望等も参考にして過ごし易い環境作りに努めている				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	個人記録やカンファレンスで話し合い共有し合っている				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	◎	日々の会話を通じて本人の思いや意向を把握し対応している				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前のアセスメントや入居時に本人や家族等から得た情報を参考にし、過ごし易い環境作りに努めている			○	入居時に、本人や家族から聞き取り、生活歴、生活環境、これまでのサービス利用の経過、趣味、好きな食べ物、社会との関わりなどの情報を入居者情報シートやアセスメントシートに記入している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日々の言動や心身状態等を個人記録に残し、申し送り等で現状の把握に努めている				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々観察し、職員で情報を共有して声掛けや対応に気を付けている				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	職員同志で話し合い対応している				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	個人記録に残し申し送り等で把握して共有している				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の思いを反映した生活が送れるよう検討し対応している			○	月1回のミーティング(カンファレンス含む)時に、個人観察記録等の情報をもとにして話し合っている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	カンファレンス時や日々業務の中で気付いたことを共有し、本人に合った生活プランを検討している				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	課題についても話し合い、解決に向けての実践に取り組んでいる				
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族等の思いや意向を取り入れた内容になるよう努めている				
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族等の思いや要望も参考にし、職員間で話し合い作成している	◎		○	理学療法士が作成したりハビリ計画の内容を採り入れて計画を作成している事例がみられた。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	家族より話を伺い、本人に合った介護計画の作成に努めている				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族等の意見も取り入れ、共に支えていけるようなプラン作りに努めている				
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画は見やすいように9名分を一つにファイルし、職員間で共有し実践につなげている			○	ユニット毎に一冊のファイルに綴じて共有している。計画作成担当者は、日々の中で職員に介護計画の支援内容について、具体的な方法を説明している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	日々の生活の中で実践・評価していき、次のプラン作成にもつなげている			○	介護計画の実践内容を時系列で記録できるように個人観察記録を改善しており、情報量が増えているようだ。
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	◎	言動や訴えに対しても個人記録に残し、職員間で共有し対応している			△	個人観察記録に、実践内容と合わせて言葉、エピソードなどを記録しているが、記入量は少ない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づいた事を記録し職員間で話し合せて実践している			○	個人観察記録に、実践内容と合わせて記録したり、ミーティング議事録に記録したりしている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3ヶ月ごとに見直しを行っている			◎	計画作成担当が一覧表にして期間を管理し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	コロナ禍で行えてない時期もあったが利用者一人一人のプラン内容を把握し実践・評価につなげている			○	毎月のミーティング(カンファレンス含む)時に、介護計画に関わらず、現状について話し合っている。また、話し合った内容をもとに、担当職員が月1回ケアプラン評価表を文書でまとめている。
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	◎	状態変化があった時にはその都度見直し、家族にも伝えている			○	体調不良で食事がほとんど食べられなくなった利用者について、計画を見直した事例がある。
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	カンファレンス時に話し合ったり、事故など緊急案件が出た場合にはその日の勤務者で話し合っている			○	月1回、ミーティング(時期をみて全員が集まったり、少人数で集まったりしている)を行い、議事録を作成している。緊急案件があれば、その日の勤務職員で話し合い、決まったことは伝達ノートに記入している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	会議では職員間で意見交換ができる場になっている				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	全ての職員が参加出来るよう日時や時間等は事前に伝えられている				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	出勤時に申し送り、全員が把握できるように努めている			○	参加不参加に関わらず、職員全員が議事録を確認することになっている。必要時には、管理者やユニットリーダーが個別に説明している。
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートや個人記録など活用し、職員間で共有し合っている			○	家族の要望や伝言については、伝達ノートに記入して申し送っている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	業務日誌・個人記録や申し送りノート、受診の日程等はホワイトボード等も活用し口頭でも伝え把握している	◎			
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	日々の関わりの中で利用者希望等引き出せるように努めている				
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	利用者の意見を尊重し、それに合った支援に努めている			○	入浴後の着替えを選ぶ場面をつくっている。10月には食事をバイキング形式(半炊き、おにぎり、唐揚げ、玉子焼き、梨などを用意)にして、好きなものを好きな量選べるようにした。
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	希望に合わせて対応し、利用者自身が納得して行えるよう支援している				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	利用者一人一人のペースに合わせた生活が送れるよう支援している				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者の笑顔を引き出せるような声掛けや支援に努めている			○	室内で季節毎の行事を楽しめるよう工夫している。正月には職員が鳥居を手作りして、はなの家神社に見立て、お詣りの雰囲気を楽しめるようにした。夏には納涼祭を行い、利用者はゲームやスイカ割りを楽しんだり、たこ焼き、焼きそば、かき氷を食べて過ごしたりできるようにした。秋には運動会、冬にはクリスマス会で楽しむ機会をつくった。日々の中では、みんなで歌集をみながら歌ったり、体操をしたりするよう時間をつくっている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や体調等考慮しながら安心・安楽に生活が送れるような支援に努めている				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	◎	声掛けや介助時の態度等には気をつけている	◎	◎	△	この一年間では、学ぶような機会は持っていない。職員の気になるような言葉遣いがみられた時には、その都度ユニットリーダーが注意をしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさず丁寧な言葉かけや態度を心がけている。目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	利用者一人一人に合った声掛けを工夫している			○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄・入浴時には特に声掛け・介助等には配慮しながら支援している				
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にはノックをし、必要時以外には出入りは控えている			○	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報等漏えい防止に遵守し徹底している				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者介護される一方の立場におかず、利用者に向けてもありがとう教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物たたみや新聞折り等お手伝いをして頂いた際には、必ず感謝の言葉を伝えている				
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	普段の生活の中やレクリエーション等、利用者同士の会話やコミュニケーションを作る場を設けている				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が助け合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)	○	トラブルになったり孤立したりすることのないよう、席や配置を工夫している			○	他利用者トラブルになりがち利用者について、介護計画に「他者と一緒にレクリエーションなどを楽しめるように職員が間に入り気配りする」と挙げて支援している。
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員が間に入り、周りの状況にも気をつけながら対応している				○

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時のサマリーでの情報や家族から情報を得て把握している					
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	入居時に本人や家族から話を聞き把握に努めている					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	コロナ禍で出掛けていく事は難しい状況であった					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	コロナ禍で難しい状況ではあったが、面会は一階玄関のガラス越しに会うことができるよう、環境を整えている					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	コロナ禍で難しい状況であり、以前のように外出支援は行えていない現状である	△	△	△	法人の方針で、敷地外への外出を控えている。敷地内を散歩したり、花壇の花を見に出たりすることはあるが、外出の機会は少ない。	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	コロナ禍で難しい状況であった。以前は民生委員などの協力を得て外出や、はな祭りに学生のボランティアの協力を得ている				各ユニットのベランダで野菜を育てており、水やりや収穫の際に外気に触れる機会をつくっている。	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	コロナ禍であったため積極的な外出は控えていた。ホーム周辺の散歩等行っている			○		
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	コロナ禍であったため積極的な外出は控え、家族等にも了承して頂く					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	状態の変化や症状には常に気にかけて支援している					半年毎に、利用者個々にアセスメントシート2(できること、できないことシート)を作成している。入浴についても情報収集しており、体を洗う際には、自分で洗えるところは自分で洗えるように支援している。利用者の状態に応じて、洗濯物たたみや新聞折りなどをお願いしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日々の生活の中でちょっとした運動やレクリエーション等取り入れて、筋力や各機能の低下防止につなげている					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	出来る事は本人にして頂いている	○		○		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の能力をしっかりと理解し、実践している				利用者の誕生日に、電子ピアノを弾くことが役割になっている利用者がある。その様子をはな便りに載せている。毎日、夕食後のテーブル拭きをするのが役割の利用者がある。毎週火曜日に生花が届いており、活けることを利用者にならせている。活けた花は居間に飾っている。10月の運動会の折りには、色画用紙に大きく宣誓の言葉を書いて、職員が利用者と一緒に読みながら選手宣誓を行った。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来る事は声掛けをしてゆっくりでも一人で行えるように支援している	○	○	○		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	コロナ禍であったため難しい状況であった。以前は町内の防災訓練に参加したり、定期的に地域の小学生の来訪があり交流を図っていた					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	季節感のある服装や身だしなみになるよう気をつけている				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	着なれた衣類や使い慣れた物での整容をして頂いている					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	◎	声掛けをしアドバイスをしながら支援している					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	△	外出時(受診時)やホーム内での行事のある時には普段よりもおしゃれをして頂けるよう支援している					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	気づいた時にはさりげなく直すように支援している	◎		○		評価困難
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	コロナ禍で難しい状況であった。現在は職員が入浴時等に行っている。又、落ち着いたら訪問散髪や馴染みの散髪屋等も利用して頂きたい					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	現在は職員が定期的に散髪を行っている。服装も着やすいように工夫支援している					○

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと			
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	以前参加した研修等で学んだことを活かして食事の意味や大切さを理解している				法人の管理栄養士が立てた献立にそって、職員が食材を注文している。野菜は八百屋、魚は魚屋、肉は肉屋、米は米屋から直接届く。調理は、調理専門の職員や介護職員が行っているが、時には、利用者が卵の殻むきや、もやしの根とりなどを行う場面をつくっている。下膳や食器洗いを行う利用者があり、職員は見守っている。			
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	×	食事の献立は栄養士が作成している。感染症等の予防も含め、現在は一緒には行っていない。食べた食器の下膳等出来る利用者には行ってもらっている			○				
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の方の発揮、自信、達成感につなげている。	×	感染症等の予防も含め、一緒に行うことが難しい状況であった							
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者から伺ったり、食事の様子もしっかり観察しながら好みの把握に努めている。刺身が苦手な利用者には煮つけにするなどして提供している							
		e	献立づくりの際には、利用者のお好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	△	季節感のある献立にはなっているが、献立は栄養士がたてている					○		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	○	利用者一人ひとりに合わせた食事形態で提供している							
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	お箸は本人の物を使い、食器類は使いやすい軽めの食器を使用している					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も利用者と一緒に食事をし、見守り・介助等行っている						評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事作り中の匂いや雰囲気も楽しんで頂けるよう支援している			◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事は毎回記録し、職員間で把握している。個人の状態で6割や8割に調整して摂って頂いている方もおられる							
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	職員は食量や水分量を把握し、食量が少なかった時には高カロリーの栄養ドリンク等も併用して補っている							
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	献立は栄養士がたてているが、食事形態等は必要に応じて職員間で話し合っている						△	献立は法人の管理栄養士が立てている。食事形態については、随時話し合っているが、定期的に話し合うような機会は持っていない。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	研修等で学んだ事を活かし理解している。調理器具やふきん等は毎回消毒を行っている。							
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修等で学んだ事を活かし理解している							
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	食後のケア時にチェックしたり、訪問歯科医からも話を伺い把握している				○	口腔ケア時に目視して、異常があれば歯科医につなげている。		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	確認し実践している							
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	就寝時には義歯は外し洗浄剤にて消毒している							
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	見守り・介助を行いながら支援している					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	異常がみられた時には報告し、往診に来て頂いている							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修等で学んだ事も活かしながら理解している				その都度、職員で話し合って支援している。布パンツを使用している利用者について、失禁などがみられても、すぐにパッドや紙パンツに変更するのではなく、現状維持できるように、介護計画で支援を共有して取り組んだケースがある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	研修等で学んだ事も活かしながら理解している				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を用いて職員間で共有している				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	出来るだけトイレで排泄があるように利用者の状態に合わせて支援している	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	カンファレンス時に話し合い取り組んでいる				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声掛けや誘導を行っている。	○	早めの声掛け・誘導を行うよう支援している				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	△	家族等に相談し日中と夜間帯で使い分けている				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者の状態に合わせてパンツ・おむつを使用している				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝食前等に冷たい牛乳を飲んだりヨーグルトを食べてもらったりして自然排便を促すよう努めている				
		20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	体調等考慮しながらできるだけ希望に沿った入浴の支援に努めている	◎	
b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。			○	一人一人の状態に合わせて入浴ができるよう支援している				
c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。			◎	出来る事は本人にして頂き、職員は見守り出来ないことをサポートしている				
d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いをせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。			○	一度拒まれた方には時間を空け再度声掛けする等して対応している				
e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。			◎	入浴前には血圧・体温測定し判断している				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者が状況を把握し、申し送り等で伝え職員間で共有している				薬剤を使用する利用者は、主治医に状況を報告して相談しながら支援を行っている。安定剤を服用している利用者について、精神科医と相談しながら減薬につなげたケースがある。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転にならぬよう日中の生活状態にも気を配りながら支援している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員間でも話し合い、主治医やホーム長にも相談し指示を頂いている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	いつでも居室やリビングのソファで休んで頂けるよう支援している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	希望があれば対応している。誕生日等で家族から電話がかかれば直接お話しして頂いている				現在積極的に電話を利用される利用者はおられない。以前は家族より携帯電話を購入され利用者自身がいつでも家族へ電話されている方もおられた
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	希望があれば支援している				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	希望があれば対応している				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	届いた手紙等は本人に渡し、居室に飾ったりもしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	現在は積極的に電話を利用される利用者はおられない。以前は家族より携帯電話を購入され利用者自身がいつでも家族へ電話されている方もおられた				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	職員は利用者がお金を所持したり、使うことの大切さを理解している				/		
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	×	現在は自身でお金を所持されている方がおられない。必要な物は職員が購入している。						
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	コロナ禍で難しい状況でもあって現状行っていない						
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使うように支援している。	△	希望があれば家族と相談し行っている。現状自身で所持されている利用者はおられない						
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族に相談し物品購入等の了解を頂いている						
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入出金はおこづかい帳に記入し、領収書は必ず家族にお渡ししている						
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに採れない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	要望があった場合には出来る範囲で柔軟に対応している	◎		○	家族の希望があれば、職員が病院受診を支援している。精神科受診については、日々の様子や症状を医師に伝える必要があるため職員が対応している。		
(3) 生活環境づくり											
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関周りには季節の鉢植えをの花を置き、いつでも気軽に出入りができるように明るい雰囲気にしてしている	◎	◎	○	一階の玄関前には寄せ植えの鉢を並べていた。玄関を入ると事務所がある。		
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない暖かな共用空間等、家庭的な雰囲気をそっくり再現していないか等。)	◎	共用の空間にはテレビやソファを置いて家庭的な雰囲気となっている。装飾品も季節感を出している	◎	◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	リビング・居室と気をつけて行っている				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	季節の花を育て飾ったり、装飾品も季節感を出している				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	仲良くリビングでお話されたり、居室の方で休まれたり各々自由に過ごされている						
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室を使用する時には戸を閉めて直接見えないように配慮している						
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	以前より使用していた使い慣れた物を持って来て頂いている	◎			評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかったこと」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	廊下・トイレ・浴室には手摺りをつけて安全に過ごせるよう配慮している				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	危険な物や誤って口に入れてしまう恐れのある物等は近くに置かないよう気をつけている						
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、織物道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	キッチン前のカウンターには新聞や雑誌、パズル等置いてあり、いつでも手に取って頂いている						
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	鍵をつけない・かけないケアを実践している	○	◎	△	この一年間では、身体拘束や鍵をかけることの弊害について学ぶような機会は持っていない。職員がマニュアルを自主的に確認することとどまっている。日中、玄関やユニットの出入口は施錠していない。ユニットによっては、利用者の状況により一時的に施錠することがある。		
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	職員がしっかり見守りを行う等して対応している。安全確保のために開ければわかるように鈴をつけている利用者もおられる						
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	ユニットの出入口には鈴がついてあり、出入りがわかる						
(4) 健康を維持するための支援											
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	介護サマリーにて把握し職員間で共有している				/		
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	異常がみられた時には主治医・ホーム長へ報告をし、細かく記録も残すようにしている						
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	敷地内に病院があり、連携もとれている						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地評	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	敷地内に母体医院はあるが、必要に応じて柔軟に対応出来るように支援している	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	医師・家族と密に話し合い、適切な医療が受けられるよう支援している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	受診結果については家族よりその都度報告を受け、又、職員が受診に同行し結果を共有している				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は情報提供を行い、普段の様子等も伝えている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中は担当者と連携をとり、情報交換を行っている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	入院時には状況に応じて対応し、必要な情報を詳しく話している				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	利用者の変化や気づいた事等は申し送り、主治医・ホーム長へも報告している				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	主治医・ホーム長へはいつでも連絡がとれ、その都度指示を頂いている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	職員は小さな変化でも気づけるよう日頃の関わりから気づき、早期発見・治療につながるよう努めている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者の服用している薬については薬剤情報やお薬手帳等で確認し把握していている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	職員が服薬の管理・支援をし、服用時には職員二名で確認しあって飲み忘れや誤薬の防止につなげている				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	臨時薬や屯服薬の服用時には特に気をつけて確認・観察を行っている				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	状態の経過や変化は記録に残し、主治医・ホーム長、家族へ報告している				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や段階に応じて何度も密に話し合い、方針を確認していている				入居時に、看取りの指針に沿って説明を行い希望を確認している。その後は、状態変化時に、主治医から家族に説明を行い希望を確認して話し合っている。感染対策期間中の看取り支援では、家族に防護服を着てもらうなどして感染対策を徹底し、一緒に過ごす時間をつくった。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	家族も主治医と話し合い、治療方針については職員も共有している	◎	◎		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	ホーム長より指示を頂きながら職員間で共有し合って行っている				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時やその都度状況に応じた対応を家族に伝え理解を得ている				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度な病氣や終末期を迎えても安心・安楽に過ごして頂けるよう十分に話し合い支援している				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の思いや気持ちも汲みとれるよう努めている				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	研修等で学んだ事を活かして対応している				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症対策のマニュアルを作成し対応している				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	県・市や保健所等から緊急連絡等があったら各ユニットへ伝達され、予防・対策につなげている				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	県・市や保健所等から情報も参考にし、随時対応している				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時・外へ出て戻ってきた際には毎回手洗いうがいには行っている。体温や手指消毒にも気をつけている				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話・手紙等で状態を伝え共有し、良好な関係を築いている				新型コロナウイルス感染症対策期間のため評価はできない。 年2回、はな便りを発行しており、行事や普段の様子、運営推進会議の内容について報告している。昨年11月より、Instagramで日々の暮らしの様子や行事時の様子を発信している。月1回、職員が利用者の状況を手紙に書いて報告している。手紙の内容がいつも同じにならないように、時々職員が交代して行っている。	
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	コロナ禍である為、現在は一階玄関のガラス越しでの面会となっている					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	コロナ禍であり現在は参加を控えている。以前はいちご狩り・夕涼み会・いもたき等家族も一緒に参加して頂けるように声掛けをしていた	○		◎		
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の様子をお手紙で請求書へ封じし、又、年2回ははな便りを発行して活動を報告している。最近では、ホームページやInstagramを作成し、日々の様子等を配信している	◎		◎		
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	その都度報告を行っている					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症により出てくる症状等説明し理解を頂いている					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新しい事柄や行事については年2回発行するはな便りで報告している	○		○		行事については、年2回、発行するはな便りで報告している。昨年、職員の異動や定年退職者があった時には、文書で報告した。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	今回コロナの影響で家族会等行うことができなかった。以前は家族会や行事等で家族同士の交流も図られていた					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	起こり得る事やリスクについては家族にも伝え、対応方法や経過も伝えている					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的にしている。	○	来訪時や電話等で意見や要望等も伺っている			○		主に、管理者とユニットリーダーが窓口となり、家族と電話で話す際に聞いている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	その都度説明し理解、納得を得ている					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	希望に応じて対応している					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	その都度説明し同意を得ている					
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	コロナの影響で最近では中止となっているが、以前は運営推進会議等にも参加して頂き理解を頂いている		◎		以前より関わりのある小学校から、利用者宛てに手紙が届いた。事業所からは年賀状を出すなど交流を続けている。運営推進会議の地域メンバーには、管理者が直接自宅を訪ねて資料を手渡している。Instagramでつながった、市内の他介護事業所とはメッセージを交換したり、行事やレクリエーションを参考にしたりしている。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	コロナ禍で地域との交流は難しい状況であった。以前は町内の防災訓練に参加したり、はな祭りでは毎年大勢の参加があった		△	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	コロナの影響で最近では中止となっているが、運営推進会議等を通して呼びかけている					
		d	地域の人気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	コロナ禍で難しい状況であった。以前は近隣の小学生の来訪が定期的であり、交流を図っていた					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	コロナ禍で難しい状況であった					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	コロナ禍で難しい状況であった					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	コロナ禍で難しい状況であった					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	コロナ禍で難しい状況であった。今回は地域の防災訓練に職員が参加し交流を図り、地域との関係構築に努めていった					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	△	コロナの影響で最近中止となっている。現在は文書のみでの開催となっている。以前は毎回利用者・家族、地域の方にも参加して頂いていた	○		○	会議メンバー(全家族、地域住民、地域包括支援センター、市職員)に、報告資料を送付して意見等をもらっている。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	△	毎回文書にて近況を報告している			○	報告資料で近況報告、行事報告を行っている。外部評価実施後の会議時(書面開催)に、外部評価結果と目標達成計画について報告している。昨年の自己評価実施後は、報告していない。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	市役所や社協からの情報等を活かし、サービスの向上につなげている			◎	○	10月の会議で、市職員より「報告書は行事や活動状況などの写真があった方がわかりやすいのではないか」という助言があり、12月の運営推進会議より写真をつけて報告資料を作成している。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	×	コロナ禍で難しい状況であった			◎		
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録は市役所へ提出し、はな便りにも掲載している					
IV.より良い支援を行うための運営体制										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	事業所理念とユニットの理念があり、復唱し合い取り組んでいる					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットに掲示してある	○	◎			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修等ある時には知らせて下さる					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	日々業務を通して個々のスキルアップにつながるよう取り組んでいる					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	色々と便宜を図って下さる					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	最近では開設者研修の受入れ等柔軟に対応して下さった					
e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	夏休みや正月休等、公休以外にも休みを取らせて頂いている。勤務調整にも便宜を図って下さる			◎	◎	○	法人でストレスチェック制度を導入している。	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	研修等で学んだ事を活かし、理解している					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	ミーティング時や申し送り時に伺っている					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	研修等で学んだ事を活かし、職員間で共有している				○	職員は、不適切なケアを発見した場合は、ユニットリーダーや管理者に報告すること認識している。あざやケガなど小さい傷でも、見つけたらすぐに、「なぜそうなったのか」を話し合うようしている。さらに、定期的に勉強するような機会も持ってはどうか。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	毎日現場に入っているわけではないので、難しい状況である					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修等で学んだ事を活かし、理解している					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会を行ったり、その都度職員同士で話し合っている					
		c	家族等から拘束や施設等の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	その都度説明し取り組み方法を伝えている					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修等で学んだ事を活かし、理解している					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	希望に応じて対応している					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	希望に応じて対応している					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し、共有している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	研修等への参加や勉強会でAEDの使用法や対応の仕方など学んでいる				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一步手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットは記入しており職員間で共有している				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者の状態を把握し、職員間で話し合い事故防止に向けて取り組んでいる				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情・相談のマニュアルを作成し理解している				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情があった場合には速やかに対応し、解決に向けて取り組んでいる				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情内容に対してホーム長等から助言を頂きながら解決に向けて取り組んでいる				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	利用者個別に伺う機会を作ったりするが、意見や要望等は少ない			○	日々の中で個別に訊いている。意見等はほぼ出していない。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	面会に来られた時や以前は運営推進会議等で伺い業務の改善・向上につなげている	◎		○	電話や面会時に訊いている。意見等はほぼ出していない。
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	重要事項説明書に掲載している				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	事務所などでお会いした時には声を掛けて下さる。実際、職員一人一人と話をすることは少ない				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	報告・相談しサービスの質の向上につなげている			○	日々の中やミーティング時に聴いている。面会制限があり、家族が利用者の様子を知る機会が減っていることから、職員の提案で、昨年11月より、Instagramでのリアルタイムな情報発信を始めた。家族等から喜ばれているようだ。
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	意義・目的をしっかりと理解し自己評価を行っている				外部評価実施後の運営推進会議時(書面開催)時、外部評価結果と目標達成計画を、会議メンバーに送付して報告している。昨年の自己評価実施後は報告を行っていない。モニターをしてもらい取り組みは行っていない。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	職員間で共有し日々の業務に活かしている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果の報告を受け新たに出た課題の解決に向けての取り組みを共有している				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会等で報告し対応方法や助言を頂いている	○	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	課題に対しての取り組み方、結果等も運営推進会議等で報告し職員間で共有している				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	研修への参加や勉強会等で学んでいる。定期的に避難訓練も行っている				年2回、利用者と一緒に自主防災訓練を行っている。11月の地域の防災訓練には、管理者が参加した。地域より、「災害時には地域の障がい者などの受け入れをお願いしたい」という依頼があり、今後相談していくことになっている。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	様々な時間帯を想定した避難訓練を行い、対応方法を検討している				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	訓練時には点検を行っている。消火器はユニット内の見えるところに置いてある				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	コロナの影響で今回は職員のみが地域の防災訓練に参加し消防署員指導のもとに色々な訓練や体験を行った	○	○	○	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練に参加し災害対策に取り組んでいる				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	コロナの影響で発表する場は作れなかった。文書での報告となる				この一年間では、介護相談を受けるような取り組みは行っていない。 地域より「防護服のガウンテクニック(防護服の付け方外し方)について教えてほしい」と依頼があり、11月の地域の防災訓練時に、管理者が実際に行かせて見せて説明した。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	その都度相談に応じている		○	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍で難しい状況であった				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	要望があれば柔軟に対応して下さる				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	今回コロナの影響で運営推進会議の開催は難しかったが、書面や電話連絡、FAX・メール等を通じて良好な関係構築に努めていった			○	